

交野市文化財調査報告 1998-II

平成 10 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1999. 3

交野市教育委員会

交野市文化財調査報告 1998-II

平成 10 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1999. 3

交野市教育委員会

例　　言

- 1 本書は交野市教育委員会が、平成10年度国庫補助事業として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告である。
- 2 発掘調査は、交野市教育委員会が調査主体となって実施した。
- 3 本書で使用したレベル高は海拔絶対高で、方位は磁北方位である。

目 次

例 言

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況	1
第2章 発掘調査報告	8
第1節 寺村遺跡	8
第2節 交野郡衙跡98—1次	11
交野郡衙跡98—6次	12
交野郡衙跡98—5次	14
第3節 神宮寺遺跡	15
第4節 ハセデ遺跡	16
第5節 森遺跡	17

挿 図

第1図 遺跡分布図	5
第2図 調査地位置図(1)	6
第3図 調査地位置図(2)	7
第4図 調査地位置図	9
第5図 掘削地位置図	9
第6図 トレンチ北側断面図	9
第7図 遺構平面図	10
第8図 遺物尖測図	10
第9図 調査地位置図	11
第10図 掘削地位置図	12
第11図 遺構平面図	12
第12図 調査地位置図	13
第13図 掘削地位置図	13
第14図 遺構平面図	13
第15図 調査地位置図	14
第16図 掘削地位置図	14
第17図 調査地位置図	15
第18図 掘削地位置図	15

第19図	北側断面図	15
第20図	調査位置図	16
第21図	掘削位置図	16
第22図	調査位置図	17
第23図	掘削位置図	17

挿 表

第 1 表	平成10年度発掘調査一覧(1)	1
第 2 表	平成10年度発掘調査一覧(2)	2
第 3 表	平成10年度発掘調査一覧(3)	3
第 4 表	平成10年度発掘調査一覧(4)	4

図 版

- 図版1 寺村遺跡トレンチ及び遺構
- 図版2 拡張トレンチ
- 図版3 中世遺物出土状況
- 図版4 北側断面
- 図版5 交野郡衙跡98-1次調査区
- 図版6 トレンチ全景
- 図版7 柱穴断面
- 図版8 遺構検出状況
- 図版9 交野郡衙跡98-6次遺構検出状況
- 図版10 交野郡衙跡98-6次完掘状況
- 図版11 交野郡衙跡98-5次第1トレンチ
- 図版12 交野郡衙跡98-5次第3トレンチ
- 図版13 神宮寺遺跡トレンチ
- 図版14 トレンチ断面
- 図版15 ハセデ遺跡トレンチ
- 図版16 トレンチ断面
- 図版17 森遺跡第1トレンチ
- 図版18 森遺跡第2トレンチ
- 図版19 寺村遺跡出土遺物(1)
- 図版20 寺村遺跡出土遺物(2)

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況

交野市教育委員会では平成10年4月1日から平成11年2月28日に至る間、交野郡衙跡他25件の補助事業に係る発掘調査を実施した。埋蔵文化財の届出件数は、平成11年2月28日現在では136件にものぼり、昨年の同時期における届出件数が106件であることから、かなり増加していることがうかがえる。この傾向はここ数年続いているが、本年度は特に大きな伸びを示している。

工事の種別では、個人住宅建設が全体の4割、宅地造成が3割、共同住宅が2割弱、その他となっている。遺跡別に見てみると届出件数の最も多かったのは、交野郡衙跡の54件、ついで森遺跡の15件、ハセデ遺跡の12件、星の森遺跡の11件で、特に交野郡衙跡の場合、分譲住宅建設に伴う届出が大半を占めていた。また森遺跡の場合は区画整理事業後の土地の利用として、共同住宅（マンション）建設に伴う届出の提出されるケースが多かった。今後もこのような傾向が引き続き見られるものと思われる。

今年度補助事業に係る試掘調査の対象となった遺跡は、交野郡衙跡、布懸（のうがけ）遺跡、ハセデ遺跡、寺村遺跡、外殿垣内（とうのがいと）遺跡、神宮寺遺跡、東倉治遺跡、星の森遺跡、郡津洪り遺跡、私部城跡、森遺跡、坊領遺跡の12遺跡である。このうち遺構確認のため調査範囲を広げた遺跡は交野郡衙跡で2調査区、寺村遺跡で1調査区のみであった。詳細については別に一覧表を記載する。なお試掘調査の対象とならなかった場合の届出の内訳は、立会調査は7件、慎重工事は99件となっている。

平成9年度届出分

	月 日	遺 跡 名	調 査 地	調 査 内 容
1	4.17	布懸遺跡 98-1	星田4丁目3314-1の一部。 3315. 3316. 3317. 3342-2 の一部. 3343. 3344-2	調査区北、西、南部に1.2×3.8m、1.2 ×4.8m、1.2×5.0mのトレンチを設定、 約1.0mまで重機による掘削。遺構・遺 物は検出しなかった。
2	5.28	交野郡衙跡 98-1	郡津2丁目1499-1	調査区中央部分に1.5×10.0mのトレ ンチを設定。重機による掘削。柱穴を検出。 盛り土のため工事には支障なし。（本書 11ページ）

第1表 平成10年度発掘調査一覧(1)

平成10年度届出分

月 日	遺 跡 名	調 査 地	調 査 結 果
3 4.23	ハセデ遺跡 98-1	郡津5丁目944-2, 965の一部 966の一部	調査区東南部分に0.8×5.0mのトレンチを設定、約1.0mまで重機による掘削。中世遺物を検出。工事には支障なし。 (本書16ページ)
4 5. 7～ 5.19	寺村遺跡 98-1	寺2丁目1429-1, 1431-1 の一部	調査区中央部分に10.2×5.7mのトレンチを設定。重機による掘削。ピット、土壙を検出。瓦器等の中世遺物を検出。 (本書8ページ)
5 5.28	外殿垣内遺 跡 98-1	藤が尾5丁目69-2, -5, -9, 70	調査区中央部分に0.6×2.0mのトレンチを設定。0.5mの深さまで人力による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
6 6. 4	神宮寺遺跡 98-1	神宮寺1丁目297-1	調査区南部に3.3×1.0mのトレンチを設定。重機による掘削。遺構は検出しなかったが、遺物包含層を確認。工事には支障なし。 (本書15ページ)
7 7.14	外殿垣内遺 跡 98-2	藤が尾5丁目64-2 の一部	調査区南端に0.5×3.6mのトレンチを設定、0.5mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
8 7.29	東倉治遺跡 98-1	東倉治5丁目2913-2	調査区南部に1.3×0.3mのトレンチを設定、0.7mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
9 8. 4	交野郡衙跡 98-2	郡津2丁目1345他2筆	調査区南西部に1.2×5.5mのトレンチを設定、0.6mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
10 8. 5	星の森遺跡 98-1	星田7丁目2146-1	調査区中央部に1.0×3.0mのトレンチを設定、0.7mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。

第2表 平成10年度発掘調査一覧(2)

	月 日	遺 跡 名	調 査 地	調 査 結 果
11	8. 7	交野郡衙跡 98-3	郡津3丁目1368、1369	調査区中央部分に1.2×5.0mのトレンチを設定、0.4mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
12	8.11	森・天田神社遺跡 98-1	森南2丁目468-1	調査区南側部分に1.0×2.0mのトレンチを設定、0.5mの深さまで人力による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
13	8.14	ハセデ遺跡 98-2	郡津5丁目879-9	調査区東側部分に2.0×1.0mのトレンチを設定、0.7mの深さまで人力による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
14	8.31	交野郡衙跡 98-4	幾野3丁目1808、1809の各一部	調査区中央部分に1.2×6.0mのトレンチを設定、0.3mの深さまで重機により掘削。包含層内より土器片を検出したが工事には支障なし。
15	9. 7	郡津汲り遺跡 98-1	郡津2丁目45-1	調査区西北部分2カ所に0.6×2.0mのトレンチを設定し0.4mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物10は検出しなかった。
16	10. 5	私部城跡 98-1	私部6丁目1729-8、-9、-4の一部	調査区南側部分に0.4×1.2mのトレンチを設定、0.3mの深さまで人力による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
17	10. 6	森遺跡 98-2	森南3丁目132-1の一部	調査区南側部分に0.6×4.6m、6.8×0.8mのトレンチを設定、重機による掘削。(本書17ページ)
18	10.20～ 10.22	交野郡衙跡 98-5	郡津1丁目245、246、247、248の一部	調査区北側、中央部分にトレンチを3カ所設定、約0.5mの深さまで人力による掘削。土器片を検出。遺構は検出しなかった。(本書14ページ)

第3表 平成10年度発掘調査一覧(3)

月 日	遺 跡 名	調 査 地	調 査 結 果
19 12.16	坊領遺跡 98-2	藤が尾 6 丁目161他	調査区南側部分に1.0×7.0mのトレンチを設定、約1.0mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
20 12.21～ 12.22	東倉治遺跡 98-2	東倉治 3 丁目2113, 2114の一部及び地先市道	調査区東側部分に1.0×1.7m、西側部分に1.0×1.0mのトレンチを設定、1.0mの深さまで人力による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
21 1. 6	星の森遺跡 98-2	星田 7 丁目2146- 4 他	調査区東・西側部分に1.8×3.6m、1.5×3.9mのトレンチを設定、1.0mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
22 2. 3	森遺跡 98-4	森北 1 丁目305	調査区中央部分に1.4×1.8mのトレンチを設定、1.7mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
23 2. 3	森遺跡 98-5	森北 1 丁目183の一部、213-2	調査区中央部分に1.3×1.8mのトレンチを設定、1.7mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
24 2.22	森遺跡 98-6	森南 2 丁目27- 1 の一部	調査区北側部分に1.0×1.0mのトレンチを設定、0.6mの深さまで重機による掘削。遺構・遺物は検出しなかった。
25 2.23～ 2.25	交野郡衙跡 98-6	郡津 3 丁目1420- 1 の一部	調査区南側部分に3.5×7.5mのトレンチを設定。重機による掘削。中世の遺構を検出。（本書12ページ）

第4表 平成10年度発掘調査一覧(4)



第1図 遺跡分布図

第2図 調査地位置図(1) 1:15,000



第3図 調査地位置図(2) 1:15,000



第2章 発掘調査報告

第1節 寺村遺跡

① 寺村遺跡98-1次調査 交野市寺2丁目1429-1, 1431-1

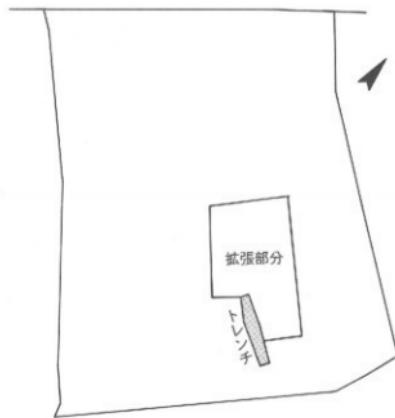
個人住宅建設に伴う発掘調査である。調査区内、東側に東西4.9m×南北0.9mの大きさのトレチを設定し、重機にて0.7mの深さまで掘り下げた。地表下0.2~0.3mまでは整地層であり、その下の層が既に削平されてしまっており、花崗岩質の地山層（黄褐色砂層）となる。トレチ内中央から東北方向へ移るにつれて整地層の下に、にぶい黄橙色の粘質土層が堆積し、北側断面で確認したところ（第6図）、直径2.0m、深さ0.4mの土壇、直径0.2m、深さ0.5mの柱穴のあることが判明。その土壇の底部より瓦器椀・瓦質土器が検出した。そのため、調査区を東西10.2m×南北5.7mの範囲に拡張し、平面的に掘り下げたところ、先の土壇、柱穴の他に、新たに調査区東北部分に東西6.2m×南北2.0m×深さ0.4mの土壇を検出した。この土壇内より布目瓦の破片を検出している。

第8図1は上部皿で、直径約8.3cm、器高約0.8cmの手づくねの皿である。2は瓦器椀で、復元口径13.0cm、器高4.3cm、高台はほとんど消滅している。かろうじて内面口縁部近くに沈線が残る。内側のミガキも粗く、見込みの暗文はヘアピン状に施されている。3は瓦器椀で、復元口径15.0cm、器高4.1cm、擦り付け状の高台が残る。沈線は認められない。4は、瓦質鍋であり、口縁部分は垂直に折り曲げた後、1.4cmほど立ち上がり端部は更に一段折り曲げた後、丸くおさめられている。内外面とも指痕圧痕が多く認められる。この瓦質鍋には外面に煤の付着がみられ、実用に供されていたことがわかる。これらはピットの中に廃棄されたものと考えられる。5は布目瓦片である。摩滅しているが表面には繩目文が見られる。

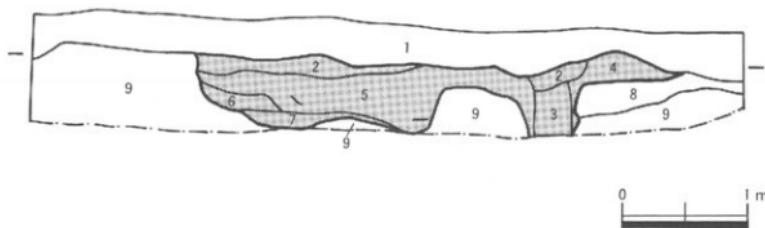
当調査地の立地は、交野山地から派生する尾根の先端部にあたり、周囲と比べても遙かに高く見晴らし良い場所である。尾根を隔てた北側の創価学園敷地内からは、6世紀末から7世紀前半の須恵器窯跡（大谷窯跡・大谷北窯跡）が見つかり、大谷廃寺と呼ぶ室町時代末期の寺の基壇や瓦の堆積や中世の集落跡なども発見されている。またJR学研都市線をはさんで西側の地域には中世の集落跡（今井遺跡）があり、周辺一帯は古代から中世にかけて栄えた地域であったことが推定される。



第4図 調査地位置図 1:2,500



第5図 挖削地位置図 1:350

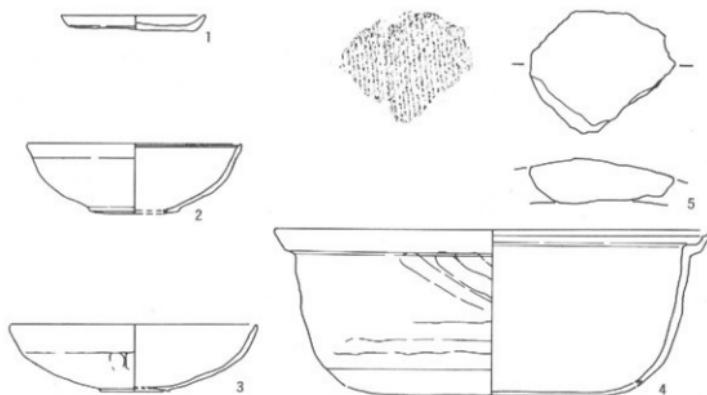


- | | | | |
|---------------|---------------|-------------|-------------|
| 1. 表土 | 2. にぶい黄橙色粘質土層 | 3. 灰黃褐色砂質土層 | 4. 灰褐色砂質土層 |
| 5. にぶい黄橙色粘質土層 | 6. にぶい褐色砂層 | 7. 暗灰黄色砂質土 | 8. にぶい黄橙色砂層 |
| 9. 黄褐色砂層(地山層) | | | |

第6図 トレンチ北側断面図 1:40



第7図 遺構平面図 1:60



第8図 遺物実測図 1:3

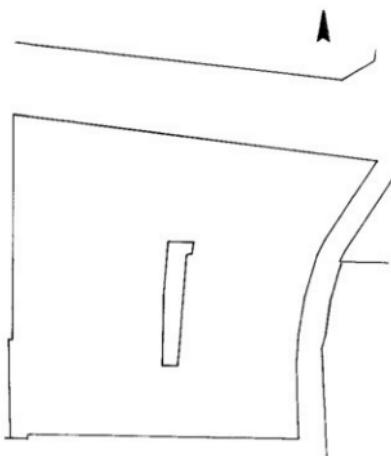
第2節 交野郡衙跡

① 交野郡衙跡 98-1 次調査 交野市郡津2丁目1499-1

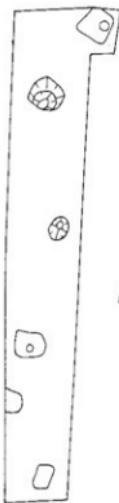
宅地造成に伴う試掘調査で、道路建設予定部分である調査区中央部分に東西1.5m×南北10.0mのトレンチを設定し、重機にて掘削を行った。旧耕作土を除去した時点、地表下0.2mで黄色粘土混じりの砂層（郡津一帯の台地上の地山層）となった。その上面から古墳時代の遺構を検出した。当調査地は、分譲住宅建設予定地であるが現地表面より更に0.3mほど盛土を行うため、基礎工が遺構面にまで影響の及ぶおそれのないことから図面及び写真にて記録を留めるのみとした。遺構は、掘立柱建物（一辺の長さ0.5mの四角い柱穴を3カ所、やや小ぶりの一辺0.3mの柱穴を3カ所）を検出した。いずれも柱穴の深さは0.3m程であった。建物の規模などは調査範囲が狭小なため不明であるが、大きい柱穴間の長さは1.8m、柱穴の並び方から南北方向に桁行きをもつものと考えられる。調査地域の周辺では、現在は埋立てられているが北側に谷（渓り谷）があり、この谷の対面から古墳時代中期の高床式倉庫（郡津渓り遺跡）が検出している。また幾野・郡津2丁目付近（交野郡衙跡）からも掘立柱建物に伴う柱穴を多数検出している。出土遺物としては、須恵器片及び土師器片が各1点ずつ柱穴内より出土しているのみである。



第9図 調査地位置図 1:2,500



第10図 挖削位置図 1:400



第11図 遺構平面図 1:100

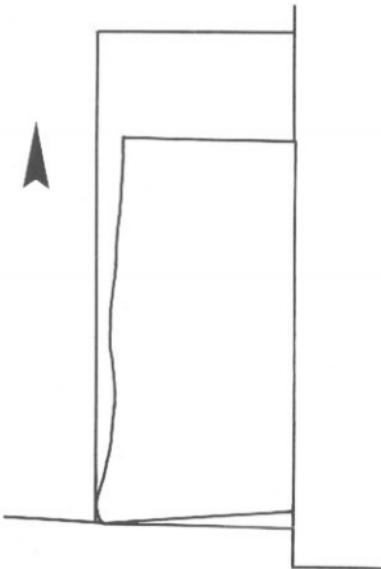
② 交野郡衙跡 98-6次調査 交野市郡津3丁目1420-1 の一部

調査地は、農業用倉庫建築予定地であり、現況は畑地である。周辺域では最も高いところに位置している。その東隅に重機にて東西1.0m×南北1.0m程度のトレーナーを設定し掘削したところ、表土下約0.2mで郡津台地特有の黄色の砂層である地山層となった。その上面より溝状遺構を検出したため、調査区を東西3.5m×南北7.5mに拡張し調査を行った。

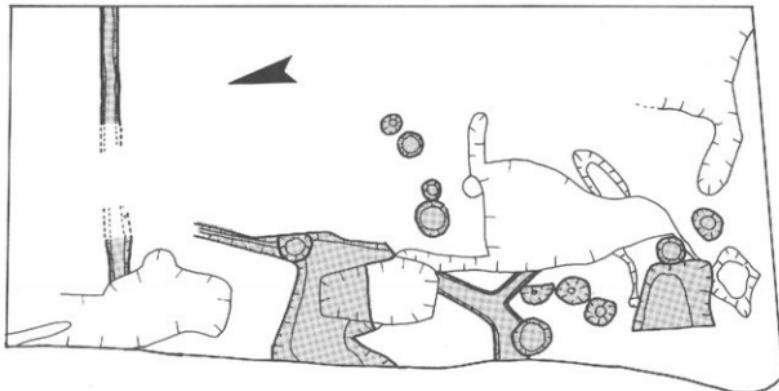
調査地は、畑作を行う以前、明治頃は住居が建っており、火災によって焼失したらしく、0.5m程の炭や瓦で埋められた柱穴を數カ所確認した。その後も部分的に掘り返しの行われた形跡がいくつかあり、かなり遺構の残存状態は悪かったが、0.3m大のピットを2基、0.2~0.3m大のピットを8基、溝状遺構、土壙等を検出した。いずれも削平を受けているため、遺構の深度は浅く、遺構の切り合い関係を探るのもままならない状況であった。これらは明確な時期差を明らかにはできないが、埋土の色から2時期に区別できる。遺物は溝状遺構内から土師器片、須恵基片及び鉄滓を各1点検出したのみである。実測できる大きさのものではないが郡衙が存在した頃とほぼ同時期のものと考えられる。



第12図 調査地位置図 1:2,500



第13図 挖削地位置図 1:100



第14図 遺構平面図 1:50

③ 交野郡衙跡98—5次調査 交野市郡津1丁目245他

宅地造成に伴う試掘調査である。調査区は上・中・下と3段の畠地から成り立っていたため、切り土の行われる高い方の北から2つの畠地部分を調査対象とし、人力による掘削を行った。北側上段の畠地には2つのトレンチを設定し、西側の第1トレンチは、東西3.5×南北1.5×深さ0.5mまで掘削し、東側の第2トレンチは、東西約3.5×南北2.0×深さ0.5mまで掘削した。層位は表土が0.1mの深さまで、その下第2層の褐色粘質土層が0.1m、第3層のにぶい黄褐色粘質土層が0.1m、以下第4層明黄褐色粘質土層（地山層）と続く。一段南に下がった第3トレンチは、東西3.0×南北約2.0×深さ0.6mまで掘削を行った。層位は上述の第2層が存在せず、表土・にぶい黄褐色粘質土層・地山層と続く。遺物は、第2トレンチの第2層から土器片1点を検出したのみで、他では見られなかった。

当調査地は、「春日宮」と呼ばれる地域である。一段低くなった南側の水田を「お出待ち田」、西側を「大門」と言い、宮に由来する地名と考えられている。この地からさらに北東方向に100m程進んだ地点には郡津神社があり、昭和50年から53年にかけての郡衙跡の範囲確認調査では白鳳～中世のピット・溝状遺構、遺物では土器・瓦等を検出している。付近一帯は古代・中世にかけて重要な地域である。



第15図 調査地位置図 1:2,500



第16図 掘削地位置図 1:600

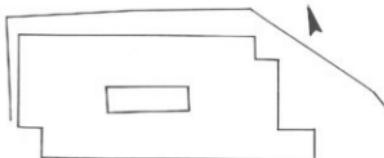
第3節 神宮寺遺跡

① 神宮寺98-1 次調査 神宮寺1丁目297-1

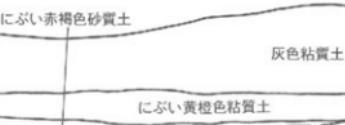
個人住宅増築に伴う発掘調査で、敷地内西北隅にあたる。調査区やや南よりに東西3.3m×南北1.0mのトレンチを設定。重機にて0.5mの深さまで掘削する。地表下0.4mまでは灰色粘質土層であり、その下0.1mにはにぶい黄橙色粘質土層である。その下層に中世土器の混入するにぶい赤褐色シルト層が続く。建物の基礎部分がこの層に及ぶことはなかったため、記録をとどめるのみとした。周辺域では、昭和44年発掘調査された神宮寺宮の下141番地で表土下0.2mから0.8mにわたり土師皿が多数検出されている。上手は神宮寺の名の由来になっている寺の伝承地もあり、今後の調査成果が期待される。



第17図 調査地位置図 1:2,500



第18図 掘削地位置図 1:200



第19図 北側断面図 1:20

第4節 ハセデ遺跡

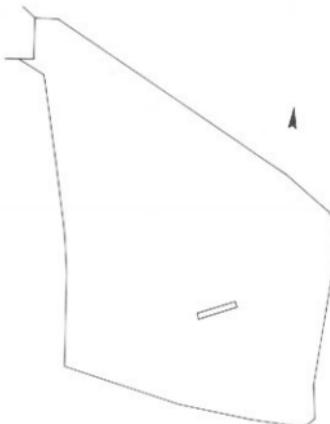
① ハセデ遺跡98-1次調査 交野市郡津5丁目944-2、965の一部、966の一部

宅地造成に伴う試掘調査で、調査区内東南部分に東西5.0×南北0.8mのトレンチを設定し、重機にて掘削を行った。表土下約0.6mまでは、造成に伴う盛土であり、その下約0.3mの深さまではもとの地盤層である旧水田層となる。更にその下0.1mの深さまでは、灰色と黄褐色の混ざった粘質土層であり、おそらく水田のハガネ土（保水のために敷き均された粘土の層）と思われる。その下に黒褐色のシルト層が続く。このシルト層内からは、中世土器の小片を検出した。更に下層部に遺構の存在が考えられるが、工事により遺構に影響の及ぼされる可能性のないことから調査は現地表下1.0mの深さまでにとどめ、断面の記録をとり調査を終了した。

ハセデ遺跡は、これまで弥生時代後期から古墳時代にわたる間の遺跡であると考えられてきたが、周辺遺跡には交野郡衙跡の所在が推測され、白鳳時代の寺院の存在も確認されていることや今回の調査から、古代・中世においても郡津台地上の重要な遺跡であったと思われる。



第20図 調査地位置図 1:2,500



第21図 掘削地位置図 1:600

第5節 森遺跡

① 森遺跡98－2次調査 交野市森南3丁目132－1の一部

個人住宅建設に伴う試掘調査である。調査区内、南側部分に逆Lの字形にトレンチを設定、南北方向にのびるトレンチを第1トレンチ、東西方向にのびるトレンチを第2トレンチとし、重機により掘削を行った。第1トレンチは東西 $0.6\times$ 南北 4.6m で、平均 0.7m の深さまで掘削したところすべて後世の整地層であったため、北よりの部分を1カ所重機にて更に深く掘り込んだ。整地層の下には旧水田層である暗オリーブ灰色の粘質土層が 0.2m 程堆積し、その下約 0.5m の深さまでは暗オリーブ灰色のシルト層が堆積していた。その下層は褐色の砂層が続き、上の色や質などから森地区の発掘でよく見かけられる中世遺物の包含層と考えられる。第2トレンチは東西 $6.8\times$ 南北 0.8m で、第3層めを検出するまで掘削を行ったところ、平均深さは 0.5m となった。トレンチ東から 3.8m で西の方向に向かって深さ約 0.5m 地面が一段下がっているのを確認した。建物基礎工事による掘削が 0.5m を越えることがなく、さらに下層の遺構がある場合でも破壊されるおそれのないことから、断面の記録をとり調査を終了した。



第22図 調査地位置図 1 : 2,500



第23図 掘削地位置図 1 : 300

図 版



図版1 寺村遺跡トレンチ及び遺構



図版2 拡張トレンチ



図版3 中世遺物出土状況



図版4 北側断面



図版5 交野都御跡98-1次調査区



図版6 トレンチ全景



図版7 柱穴断面



図版8 遺構検出状況



図版9 交野郡衙跡98-6次遺構検出状況



図版10 交野郡衙跡98-6次完掘状況



図版11 交野郡衙跡98-5次第1トレンチ



図版12 交野郡衙跡98-5次第3トレンチ



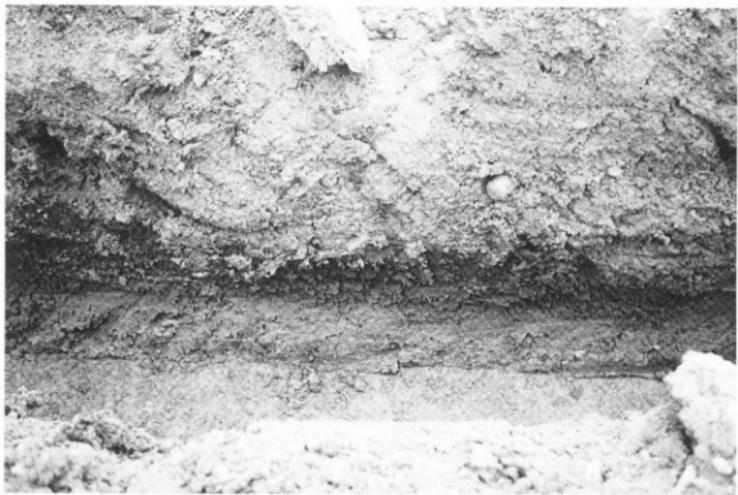
図版13 神宮寺遺跡トレンチ



図版14 トレンチ断面



図版15 ハセデ遺跡トレンチ



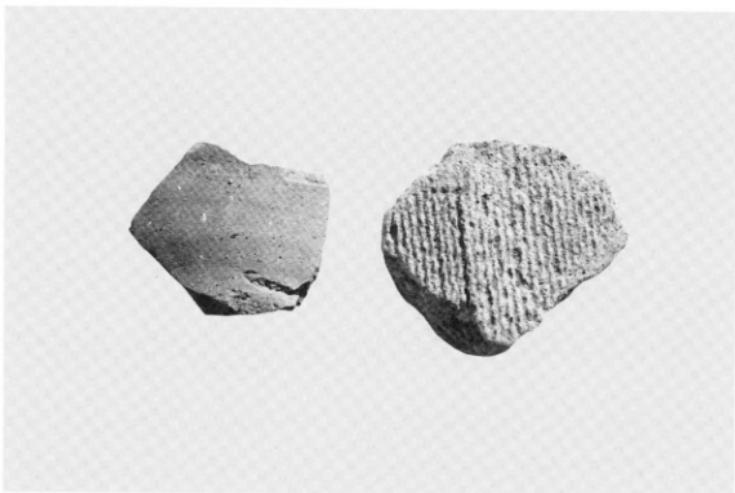
図版16 トレンチ断面



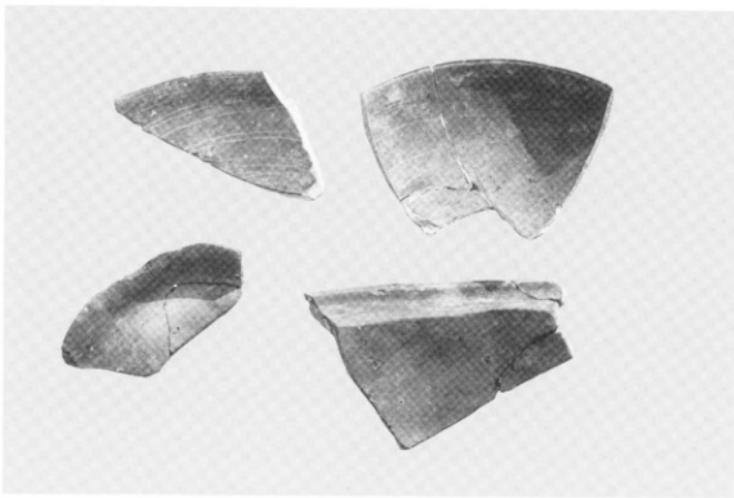
図版17 森遺跡第1トレンチ



図版18 森遺跡第2トレンチ



图版19 寺村遗迹出土遗物(1)



图版20 寺村遗迹出土遗物(2)

報告書抄録(1)

ふりがな	へいせいのぬんどかのかのしまいそうじんかぎはっくつわうさがいよう						
書名	平成10年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号	交野市文化財調査報告1998-Ⅱ						
編著者名	小川鶴子						
編集機関	交野市教育委員会						
所在地	〒576-0052 大阪府交野市私部1丁目1番1号	☎(0720)92-0121					
発行年月日	西暦 1999年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
寺村遺跡	交野市寺	27230		34°46'45"	135°41'43"	1998.5.7 ~5.19	58.1 宅地開発
交野郡衙跡	交野市都津	27230		34°47'30"	135°40'41"	1998.5.28	15.0 宅地開発
①							
②					1999.2.23 ~2.25	56.3	宅地開発
③					1999.2.3	18.3	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
寺村遺跡	散布地 集落跡	縄文・弥生・ 古墳・中世	土壙2 柱穴1	瓦器・瓦質土器・ 瓦			
交野郡衙跡	散布地	古墳～中世	柱穴6	土器片			
	集落跡		溝状遺構				
	官衙跡		土壙				

報告書抄録(2)

ふりがな	へいせいのねんじかたのしまいそうぶんかさいはくつちょうきがいよう						
書名	平成10年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号	交野市文化財調査報告1998-1						
編著者名	小川暢子						
編集機関	交野市教育委員会						
所在地	〒576-0052 大阪府交野市私部1丁目1番1号 ☎(0720)92-0121						
発行年月日	西暦 1999年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° °'	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
神宮寺遺跡	交野市神宮寺	27230		34°47'13" 135°42'07"	1998. 6. 4	3.3	宅地開発
ハセデ遺跡	交野市郡津	27230		34°47'40" 135°40'30"	1998. 4. 23	2.0	宅地開発
森遺跡	交野市森南	27230		34°46'30" 135°41'34"	1998.10. 6	8.2	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
神宮寺遺跡	散布地 集落跡	旧石器～中世		土器片			
ハセデ遺跡	散布地	弥生・古墳		土器片			
森遺跡	集落跡 生産遺跡	弥生・古墳・ 中世					

平成10年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発 行 日 1999年3月30日

編集・発行 交野市教育委員会
大阪府交野市私部1丁目1番1号

印 刷 所 株式会社 **ぎょうせい** 関西支社

